

# 第1回栗東市地方創生懇談会議事要約

平成29年1月30日（月）午後4時00分～  
栗東市役所4階 協議会室

## 【出席者】

委員：新川会長、清水憲委員、杉田委員、黒田委員、山村委員、森野委員、清水久委員  
大嶋委員、内記委員、谷口委員

事務局：市長、副市長、教育長、政策推進部長、総務部長、市民部長、健康福祉部長  
健康福祉部理事、環境経済部長、建設部長、建設部技監、教育部長、元気創造  
政策課事務局担当

## 1. 開会

## 2. 委員の委嘱について

（省略）

## 3. 会長・会長代理の選任について

（省略）

会長：新川委員、会長代理：清水憲委員

## 4. 協議事項

（1）平成27年度 地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金（地方創生）  
先行型事業の効果検証について

### 《資料説明（事務局）》

（省略）

### 《質疑応答》

#### 委員

---

シティセールス戦略事業にかかる事業費の内訳を教えてください。

#### 事務局

---

栗東市シティセールス戦略策定事業については、昨年度に栗東市シティセールス戦略と地域資源活用ビジョンの策定を行うための委託経費等として活用した。

栗東市マスコットキャラクターくりちゃん製作事業については、2体目の着ぐるみ製作費として活用した。

くりちゃんグッズ作成事業については、県内外でのPR戦略活動としてイベント会場等で子ども等に配布する関連グッズを作成するために活用した。

## 委員

---

シティセールス戦略事業にかかる重要業績評価指標として設定した観光入込客数の把握の方法を教えてください。

## 事務局

---

観光入込客数の把握の方法については、施設により利用者の把握方法は異なるが、施設管理者から聞き取りを行い、取りまとめている。

## 委員

---

こんぜ周遊バス運行事業の重要業績評価指標について、指標値と比較すると実績値が芳しくないが、どのように評価しているか教えてください。

## 事務局

---

こんぜ周遊バス運行事業については、春は4月から6月、秋は9月から11月の土日祝日に手原駅を発着点として、従来は手原駅からこんぜシャトルバスとしてこんぜの里を經由して金勝寺まで運行していたが、平成27年度からは、こんぜめぐりちゃんバスとして大野神社や九品の滝など栗東市内の名所旧跡を周遊するように運行経路や便数を見直して、実施している。

バスの運行形態の見直しによる利用者数については、目標値の800人に対して実績値679人となったが、利用者の多くは、金勝山のハイキングと金勝寺の参拝を目的としており、バスの運行期間中については、雨天が多かったために利用者数が伸び悩んだ要因の一つとして考えている。

また、当該事業は栗東市観光物産協会に委託をしており、当協会が今日まで自主事業としてバスを利用した金勝山ハイキング等を実施してきたが、自主事業の回数が減ったことに伴い、利用者数も減ったと考えている。

今後については、自主事業の促進を要請するとともに、梅雨時期を避けるなど開催時期を検討し、利用者の拡大が図れるよう取組んでいく。

## 委員

---

こんぜ周遊バス運行事業について、金勝地域だけではなく、需要があるかはわからないが大宝神社などを經由するような運行経路にすると乗客数が伸びる可能性もあると思うが経路の見直しは考えているのか。

## 事務局

---

今日までに市街地やアグリ郷栗東を經由するような経路についてご提案をいただいております、検討も行ってきます。

従来のこんぜシャトルバスは、栗東駅を発着点として、手原駅経由で金勝方面に行っていたが、利用者の大半がハイキング目的であり、あまり時間がかかると草津駅から上桐生方面に向かうバスに乗車されるため、草津線の利用促進も考慮し、手原駅の観光案内所を開設したときから手原駅が発着点となるように経路を見直した。

運行経路の見直しについては、休日に運行していないくりちゃんバスを含めた市全

体のバス路線のあり方や交通政策を踏まえたうえで、観光という視点から検討しているところである。

## 委員

---

こんぜ周遊バス運行事業について、「バスの運行により地域に就業の機会を創出しました」と記載されているが、どのような就業につながったのか。

## 事務局

---

バスの運行にかかる添乗業務については、シルバー人材センターを活用していることから地域に就業の機会を創出したという記載になっている。

## 委員

---

妊婦一般健康診査委託事業の重要業績評価指標について、指標値と比較すると実績値が芳しくないが、どのように評価しているか教えてもらいたい。

## 事務局

---

妊婦一般健康診査委託事業については、平成26年度までは、1回目から5回目までを各500円、6回目から13回目までを各2,600円、最終14回目を2,730円の合計26,030円の公費負担を行っていたが、平成27年度からは、交付金を充当し、全14回を3,300円の合計46,200円の公費負担を行い、1件あたり約20,000円の公費負担の拡充を行うことにより出産しやすい環境づくりに取り組んだ。

目標となる指標値については、自己負担が減ることから受診回数も増加する見込であったが、結果としては、財政的な負担の軽減が直接受診回数とつながるものではなかったと考えている。

## 委員

---

妊婦一般健康診査委託事業について、健康診査を受診した妊婦の数ではなく、妊婦一人あたりの平均健診受診回数であるので、従前より費用負担が軽減しながらも受診回数が減ったことについて、原因はどう考えているのか。

## 事務局

---

従前の平均受診回数からは増加する想定であったが、第2子、第3子目になると全部受診いただけないので全14回よりは下回る結果となり、妊婦一人あたりの平均健診受診回数は減ったが、実際の受診回数は減っていない状況である。

## 委員

---

妊婦一般健康診査委託事業の案内の仕方について、市の広報やホームページに掲載するだけでは知らない人が多いので、例えば栗東市内の病院の先生からは栗東市の事業の案内をしてもらうようなことが大切ではないか。マスメディアだけでなく、口コミなども含めて広く周知する必要がある。

## 事務局

---

妊婦一般健康診査委託事業については、他の健診等と同様に母子手帳の交付時に説明を行っており、また受診券は配布していることから対象者の都合により受診されていないものと考えている。

## 委員

---

毎年、健診を受診しているが、栗東市外の利便性の良い医療機関で受診すると、補助金の対象外であると言われるので、市内外を問わず柔軟に対応できるようにしてもらいたい。

## 事務局

---

全ての健診等については、医師会や助産士会等に委託しており、受診可能な医療機関で受診するようにお願いしている。

## 委員

---

交付金の充当経費について、それぞれの重要業績評価指標について、指標値に比べて実績値が下がっているものが多いが、指標値を達成できなかったために、交付金がもらえないということはあるのか。

## 事務局

---

地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金の採択を受けるにあたって、重要業績評価指数を設定しているが、それぞれの事業については、PDCAサイクルで検証や見直しをしていく。

今回いただいたご意見を反映し、事業の見直しを行っていくが、現時点で実績値が下がったからといって交付金がもらえなくなるわけではない。

## 会長

---

毎年きちんと事業を見直して、改善していくことにより目標を達成することが交付金の趣旨となっているので、各委員からは引き続き積極的なご意見をいただきたい。

## 委員

---

政府が地方創生を掲げているが地方自治体では、予算ありきと考えられても仕方ない部分がある。

地方創生は、地域が元気を出すような事業が求められており、住民が集まってにぎわいがあること大切であるとするが、花火大会など栗東の祭りが減ってきており、内向きの事業ばかりになっている。

住んでいる自治会でも一番やってほしい事業は、夏祭りや盆踊り大会という声があがっているので、地方創生の趣旨を考えればみんなが参加できて、元気がでるような事業が必要である。

## 委員

---

最近、祭りのようなイベントを楽しんだり参加はするが、ボランティアや協力し

てもらえる人が少なくなっており、市民を巻き込んで事業をするというのはなかなか難しい状況であると思うが、どのように考えているのか。

## 事務局

---

市民参画を掲げながら新しい公共を築いていく必要があるが、栗東は市外から来られた人も多く、色んな考え方を持っておられるので、上手くまとめることが出来れば良いが、地域のリーダー的な人や面倒見の良い人がいなくなって難しくなっている。

そういう方をどうやって増やしていくかということについては、現時点では具体的な案はないが、市民参画や協働という視点で検討していきたいと考えている。

## 委員

---

確かに一部の住民から祭りや花火大会を実施してほしいという声はあるが、その日1日盛り上がるだけで、地方創生や栗東市内の経済の活性化、商工業の振興につながることは考えにくい。

栗東市内で琵琶湖の花火大会のような規模の花火大会をすることは、場所的にも難しく、それならば琵琶湖の花火大会に良い観覧席を確保し、市役所から観光バスを出して何百名か招待するなど新しい発想で取組む必要がある。

栗東らしさを出すために、庁舎内や委託業者だけで考えるのではなく、栗東市内の高校生や大学生に協力してもらって、何かアイデアを出してもらうのも良いと考える。

## 会長

---

平成27年度地域活性化・地域住民生活等基金旧支援交付金事業の効果検証について、シティセールス戦略事業については、地域を元気にするという観点で、事業の見直しや今後の更なる活用を考えてもらいたい。

参加者の意識付けも含めてみんなが元気になる場ができるように、シティセールスやマスコットキャラクターやくりちゃんグッズの使い方について、観光振興の成果を実感してもらえる市民の方が増えるように工夫してもらいたい。

シティセールス戦略事業を策定したからには、それぞれの事業の成果を出すために、活用方法を考えていくときには若い人や商工業者の意見、考え方を踏まえながら進めてもらいたい。

こんぜ周遊バスについては、実績が伸び悩んでいるところもあるが、基本的には、魅力的なバスの運行形態を今後も作り出すことが大切である。また、ハイキングをする人の一部には周知されているが、これから行こうという人には周知できていないかもしれないので、より魅力的なバスの運行ルートを検討するとともに、幅広くPRをできるように進めてもらいたい。

魅力的な運行事業を行うには、運行ルートの検討・開発や関連事業を上手に組み合わせることによってバスの乗客数を増やしながら全体的な観光客の誘客を進めていけるように考えてもらいたい。

バスの発着点が手原駅というのがポイントであると思うので戦略的にどのようなルートがいいのか、くりちゃんバスを含めた市全体の公共交通の体系のなかで検討して

いただき、天候に左右されない定番の観光先として定着することができるように今後のルート開発や通年での周遊バスの可能性やあり方など考えてもらいたい。

妊婦一般健康診査委託事業については、健診先の問題もあるが、妊婦の方への周知方法について、案内や助成券を配布するだけでは不十分であり、補助金が増えることが直接的に受診回数を増やすところまでは、なかなかつながらないため、受診が可能な病院、診療所を増やすことも大切であるが、妊婦の方に今後の出産、子育て、健康の維持など健診等の重要性を医師、看護師、助産師等の方から積極的に情報を伝えてもらうことも大切であるため、健診等の重要性についての周知やPR方法を検討し、今後の展開を図ってもらいたい。

全般的には栗東らしさを出しながら、シティセールス戦略事業、こんぜ周遊バス運行事業、妊婦一般健康診査委託事業のそれぞれの事業を進めてもらいたい。

## (2) 平成28年度 地方創生関連事業の進捗状況について

### 《資料説明（事務局）》

(省略)

### 《質疑応答》

#### 委員

資料2の4ページの「災害時非難行動要支援者登録事業」について、12月末進捗状況には「登録率の向上を目指している」と記載されているが、要支援者登録名簿には、高齢者の方でも三世同居をされている方は登録されず、一人暮らしの高齢者等の災害時に支援が必要な人の名簿であるため、登録率は低い方がよいのではないか。

#### 事務局

災害時避難行動要支援者登録事業では、避難行動要支援者の方の名簿を作成しており、登録率は、関係機関等に事前に名簿情報を提供することについての同意にかかるものであり、東日本大震災が起こったときに、避難に支援を要する人の把握ができておらず、自力で避難することが困難な人が多く犠牲になったために避難行動要支援者対策として全国的に取り組んでいる。

市においても事前に同意のある方については、台帳への登録を行い、災害時に備え、身体障害者や高齢者の方を災害時に少しでも早く避難できる環境になるように取り組んでいる。

## 5. その他

- ・ 次回会議の日程について

### 《資料説明（事務局）》

(省略)

次回会議の日程については、平成29年3月22日（水）の14時から開催。

※本日出し切れなかった意見については、2月10日を目処に別添ご意見シートにより提出をお願いしたい。

## 6. 閉会(副市長あいさつ)

栗東市総合計画審議会、栗東市行政改革懇談会に引き続き、栗東市地方創生懇談会の3つの会議において長時間に亘りご意見、ご提案をいただき誠にありがとうございました。

いただきましたご意見、ご提案については、今後十分に検討し、市政に活用していきたいと考えておりますのでよろしくお願い申し上げます。

総合計画は、地方自治法に基づく、住民福祉の増進のためのあらゆる分野の基本的な計画であり、行政改革大綱では、総合計画を達成するために行政のスリム化を図るとともに、市民の理解と協働のまちづくり推進していくという今日的な課題について対応していきたいと考えております。

また、地方創生、総合戦略については、長い期間での人口減少に対して、元気で魅力あるまちづくりを達成して市民の人口増加を図っていくことが基本であると考えています。

3つの計画、事業等については市政の根幹を成すものであるもので、今後とも委員の皆さまにおかれましては、市に対しての一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます、閉会にあたってのご挨拶とさせていただきます。

以上